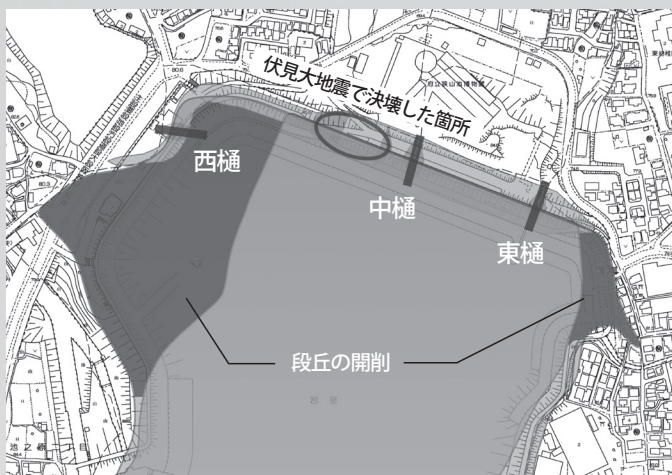


狭山池再生

狭山池を大破させた伏見大地震

1596年（文禄五年）9月5日深夜、マグニチュード7以上の大地震が近畿地方を襲いました。1995年（平成七年）に発生した兵庫県南部地震と同じ、六甲・淡路島断層帯等を震源とする内陸直下型地震で、伏見大地震と呼ばれ



慶長の改修では、伏見大地震で決壊した堤を修復し、上層東樋・中樋・西樋を新たに埋設し、東西の段丘を開削して除を整えた。

ています。この地震で伏見城の天守閣も倒壊し、被害は京阪神の広い地域に及びました。各地の遺跡でもこの地震で発生した液化化現象の痕跡が見つかっています。

狭山池の北堤も、この地震によって大きな被害を受けました。平成の改修に伴う発掘調査では、北堤の西側には敷葉工法を用いた古代からの堤が残らず、堤が池の中に崩れ落ち、流されていたことがわかりました。堤が没入した池底部分の古地磁気測定の結果、この堤の決壊は、伏見大地震によって発生した被害だと判明したのです。約千年もの間、保たれてきた狭山池の貯水機能は、この地震で完全に失われてしまいました。しかし、その後の人々の努力により、狭山池は見事に復活を遂げます。発掘調査で明らかになった慶長の改修の様子を紹介します。

慶長の改修―狭山池再生―

地震による決壊から12年後の1608年（慶長一三年）2月7日、豊臣秀頼の家臣で摂津・河内・和泉の国奉行である片桐且元の総指揮により、狭山池の再生を目的とした慶長の改修が始まりました。大破した北堤の復旧、樋の伏せ替え



中樋の移築展示（狭山池博物館）



上層東樋の移築展示（狭山池博物館）

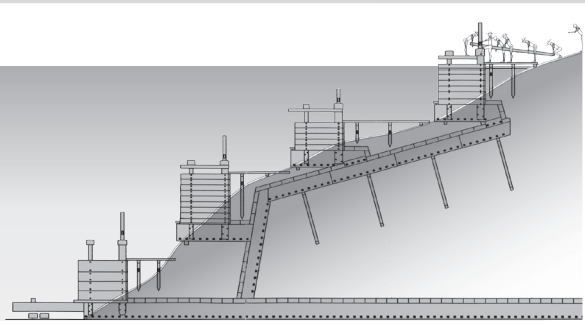


西樋の部材（狭山池博物館に収蔵）

尺八樋

慶長の改修で採用された4段構造の尺八樋は、最上段の一番樋から順番に操作して水を送水する。三番樋から上はメンテナンスを行って大正時代まで機能が保たれた。

最下段の四番樋に用いられているヒノキ材の伐採年は1600年ごろ。慶長の改修当時のまま、池底に埋まっていた。



この改修で設置された樋は、中樋と東樋、西樋の三基。中樋では重源が伏せた石樋を解体し、ヒノキの板材を組み合わせた約60mの樋管を伏せ、尺八樋と呼ぶ四段構造の取水部を構築しました。取水部の両側には、重源の石樋として用いられていた石棺材材で石組をつくり、重源狭山池改修碑も石材に転用しました。東樋では飛鳥時代の樋管の上に中樋と同様の樋管を伏せました。

狭山池では築造当初から、北堤の東と西に除を設け、余り水を下流へ流すしくみが備わっていたと考えられます。当初の東除からは御庭池の谷筋へ、西除からは副池の谷筋へと放流され、付近の地形は水流で徐々に削られて荒れていたのでしょう。慶長の改修では、東西の堅い段丘礫層を人力で掘り広げ、除の整備が行われました。狭山池から東へのびる現在の東除川の流路もこの時に掘られたものです。西側には、中樋と同じ尺八樋構造の西樋が新設されました。

地震で傷ついた箇所を修復した堤も標高80mまで高上げられ、狭山池の湛水面積は51万㎡に及んだと推定されます。江戸時代の狭山池は現在よりも大きかったのです。灌漑範囲も、現在の大阪市・八尾市・堺市・松原市・羽曳野市など80か村に及び、狭山池の歴史上最大となりました。再生した狭山池の水を貯め、水下を灌漑する能力は、大幅に向上したのです。

江戸時代から現代・そして未来へ

慶長の改修では、狭山池の維持・管理体制も整備され、池の東西に樋役人の集落「新宿」が置かれ、彼らが樋の開閉や池の管理作業を担当

片桐且元

豊臣秀吉の家臣で、秀吉が柴田勝家と戦った賤ヶ岳の戦いで活躍し、七本槍の一人に数えられた武将。伏見大地震後には、大坂城下の復興事業に関わっていたようだ。豊臣家では秀頼の後見を務める重臣で、徳川家康からは豊臣家直轄地の国奉行に任命された。寺社奉行として、多くの寺院復興事業にも携わった。

「片桐且元画像」大徳寺塔頭玉林院所蔵

余分な水を放流する「除」の整備を行い、ほぼ1年間で竣工しました。

しました。また、改修の現場責任者の一人であった池尻孫左右衛門が狭山池の管理責任者「池守」になり、その子孫である田中家が池守を代々務め、明治時代のはじめまで狭山池の運営事務を担当しました。

慶長の改修から数十年後までに、上層東樋の取水部と中樋・西樋取水部の最下段は、池底に堆積した土砂で埋まってしまいました。改修と補修を繰り返すことで、中樋と西樋の上3段の取水部の機能は、大正時代までの320年間維持され、水下の村々へ水を供給し続けました。この文章の背景に掲載している西樋の写真からも、その様子が伺えます。

貯水量の増加を目的として、1926年（大正一五年）に着工された大正・昭和の改修では、コンクリート製の取水塔を設け、「第二狭山池」として副池も誕生しました。

1988年（昭和六三年）から2002年（平成一四年）まで施工された平成の改修により、狭山池はその治水能力が大幅に向上し、最新の土木技術によって施工された「狭山池ダム」として再生しました。また、周遊歩道を備えた狭山池公園には多くの人々が集い、市民による「狭山池まつり」が毎年開催され、出土文化財を展示保存する狭山池博物館には国内外から年間10万人もの来館者が訪れています。

一四〇〇年間受け継がれてきた狭山池。美しい水を湛え、命と暮らしを守る狭山池。古代と未来をつなぐ、私たちの大切な文化遺産です。

問い合わせ 歴史文化グループ